

「平成21年度 障がいをもつ子どもの保育研修会」報告書

- 【期 日】** 平成21年9月2日（水） 10:00～16:00
- 【目 的】** 障がいの有無にかかわらず、すべての子どもは適切な環境のもとに、一人ひとりの発達を保障されなければならない。その中で、特別な配慮を必要とする子どもに対し、保育者はどう関わればよいのか。そこには、保育者の質の高い専門性が問われる。本研修会において、発達障がいに対する正しい理解と適切な支援のあり方について学ぶ。
- 【主 催】** 佐賀県保育会
- 【後 援】** 佐賀県
- 【参加者】** 96名
- 【会 場】** 佐賀市文化会館 イベントホール
(佐賀市日の出 1-21-10 TEL0952-32-3000)
- 【内 容】** 研修1「基調報告」
講師 田中 豊博 氏 (佐賀県保育会会長)
10:10～10:30
- 研修2「気になる子どもの支援と保護者への対応」
講師 牧野 桂一 氏 (筑紫女学園大学文学部日本語・日本文学科教授)
10:30～12:00
13:00～16:00

【日 程】

9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	16:00	
受付	開会式 倫理綱領朗読	研修1	研修2	昼食	研修2 (続)	閉会・解散

～午前の部～

開会式

倫理綱領朗読

研修1 「基調報告」 佐賀県保育会会長 田中豊博氏

1. 保育園の現状

- ・ 気になる子どもと同時に気になる親が多い。
- ・ 保育心理士の必要性
- ・ 新型インフルエンザ感染拡大に注意、予防を。

2. 保育制度改革の動向

- ・ 政権交代後の制度の行方を懸念
- ・ 保育に欠ける⇒保育が必要な…になると福祉ではなくなる。

研修2 「気になる子どもの支援と保護者への対応」

講師：筑紫女学園大学文学部日本語・日本文学科教授 牧野 桂一氏

◎現在の日本の幼児教育は…

	保育園・幼稚園	小・中・高校
日本	30	100
イギリス	115	100

(※小・中・高校時にかかるお金を100とした場合)

- ・ イギリスでは、ブレア首相の下、教育に力をいれた結果115まで幼児教育環境を整えることに成功した。その結果、保育士は増え、刑務官の数が減った。
- ・ 現在100万人の閉じこもった青少年をかかえている日本。
- ・ 幼少期の母子関係、家族関係が大切。保育を家庭でできなければ他機関でケアしていく。
⇒脳科学者ドーマン博士も著書の中で幼児期の大切さを説いている。

◎気になる子どもについて…

1. 気になる子ども

大きく4つに分類できる。

(1) 発達が気になる子

- ・ 発達の遅れ、つまずき
- ・ 知的障害
- ・ 運動発達遅滞

(2) 行動が気になる子

- ・ 自閉症
- ・ 注意欠陥多動性障害
- ・ 学習障がい
- ・ 情緒障がい

(3) 家庭環境（母子関係・情緒面等）

- ・ 虐待
- ・ ネグレクト
- ・ 家庭不和
- ・ 育児能力不足
- ・ 母子家庭、父子家庭問題

(4) 医療的な面で気になる

- ・ アレルギー（アトピー、アナフィラキシーショック等）
- ・ てんかん
- ・ ぜんそく

○大きく世の中が変わりつつある

- ①教育基本法が変わった（障害児の教育について明示）
- ②障がい者の権利条約について
- ③発達障がいといわれる子どもの出現率がここ10年で100倍になったともいわれている現状

○保育課程について

- ・ 保育課程は自分たちの行っている保育の裏づけ
- ・ 年間指導計画⇒月案⇒週・日案【仮説】をたて、保育【実践】を行いその後、反省・代案を赤で書いていく【検証】。

※このサイクルの中で、個別の指導が必要なときは発達の年齢に下りる。幼児期は、適切な配慮をすれば、どんどん伸びる。

～午後の部～

○発達が気になる子について

- ・気になる部分を念入りに確かめ、職員皆の目を整理する。
- ・保育指針や保育課程を通して、チェックリストを共有化し、保育者の気づきのレベルを上げる。
- ・発達が遅れていたり、保育の課題があわなかったりすると
 - ⇒子どもは興味・関心がわかなくなる。
 - ⇒発達を捉え、個別支援することにより育つ。
- ・倫理綱領にあるように、子どもが現在(いま)を幸せに生活し
…という現在(いま)を大切にし、発達の現実をきちんと捉え、そこから出発することが大事。
- ・自分の発達の適度なところがおもしろい。
その発達を観察(実態調査)し、十分に支援する。
 - ⇒子どもの嫌なことばかりを繰り返すのは精神的虐待。
- ・言葉が出なくなった子どもの事例を通して
《事例》
3歳4か月男児。『おかあさん』のことを『おたあさん』と発音。
その度に「だめでしょ」と叱られる。吃音から始まって、場面緘黙へ。
⇒牧野先生の著書『ことばを育てる』にも詳しいことが示してある。

○行動が気になる子

- ・ADHDの子どもに関しては、薬を飲むことで、覚醒レベルを上げる。
 - ⇒行動のコントロールができるようになることがある。
- ・行動のコントロールができにくい子どもに関して次のことが有効。
 - 『朝、早く起きる』…登園の2時間前に
 - 『朝ごはんを必ず食べる』…脳のエネルギーはグリコーゲン
 - 『夜、早く寝る』
 - 『テレビ・ケータイを消す』…脳のネットワーク作りの邪魔をする。
- ・保育園でできることとして、朝のうちに運動をする。
 - (友だち・保育者との触れあい体操が有効)
- ・どんな障がいにも対応する薬は無いが、どんな障がいにも対応する保育はある。
- ・《保育＝生きる喜びを教える》こと。自分は尊い人間なのだと感じ取る。
できること喜ぶこと、関心のあることをする。

○気になる子どもの実態評価

・発達障がいの種類

広汎性発達障がい、自閉症、アスペルガー症候群（高機能自閉症）
注意欠陥多動性障がい（ADHD）、学習障がい（LD）

・自閉症の特徴として

- ①他の人と社会関係を持ちにくい。
- ②コミュニケーションをとりにくい。
- ③想像力と創造性の問題
- ④その他の問題
 - ・感覚に関すること
 - ・動作に関すること
 - ・学習に関すること

○イギリスの自閉症協会のアプローチの基本

- ・ **Structure**（構造化） 構造化した具体的で曖昧さのない環境の提供
- ・ **Positive**（肯定的） 肯定的な働きかけで子どもを伸ばす支援
- ・ **Empathy**（共感） 共感を持つこと
- ・ **Low arousal**（興奮させない） パニックを招かない環境の整備
- ・ **Links**（連携） 関係機関との連携

○肯定的な視点

《ダメだといわれる子どもの見方》

- ・ のろまな子ども → 慎重で丁寧な子ども
- ・ 落ち着きのない子ども → 何にでも興味関心を持ち積極的な子ども
- ・ 気をまわす子ども → いろいろなことによく気が着く子ども
- ・ ひがみっばい子ども → 直感的で人の気持ちをくみ取る子ども
- ・ 多動な子ども → 元気で活発な子ども
- ・ 消極的で陰気な子ども → 調子にのらずに平静な子ども
- ・ おくびょうな子ども → 慎重で用心深い子ども

《研修2の効果及び評価》

気になる子どもが10年前の100倍になっている。という牧野先生の衝撃的な報告を受け、様々な角度からデータをもとにお話してくださる内容は、受講者皆、目から鱗が落ちる…といった思いではなかったでしょうか？

良い保育者は、のん気・根気・元気のある人。とおっしゃった牧野先生ご自身がまさに子どもの育ちの見方がポジティブで、こんな先生に出会えた子どもは

幸せではないかと思った。『みんなが資源、そしてみんなで支援することで、気になる子どもは生まれてきて良かったと思う』というお話を胸に刻み、一人ひとりの発達に添った支援のできる保育者になりたいと改めて感じた有意義な研修だった。保育心理士の免許取得にも興味を持った方が多かったようだ。

(文責：中央保育園 今川瑞枝)